

Power Systems

コントロール・パネル機能の管理



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[v ページの『安全上の注意』](#)、[25 ページの『特記事項』](#)、「*IBM Systems Safety Notices*」(G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823)に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。本体機器提供後に、追加で電源コード・セットが必要となった場合は、補修用の取扱いとなります。

本書は、POWER9™ プロセッサを搭載した IBM® Power Systems サーバーおよびすべての関連モデルに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：

Power Systems
Managing the control panel functions

発行：

日本アイ・ビー・エム株式会社

担当：

トランスレーション・サービス・センター

© Copyright International Business Machines Corporation 2018, 2020.

目次

安全上の注意.....	v
コントロール・パネル機能の管理.....	1
コントロール・パネル機能の管理の新着情報.....	1
コントロール・パネルの概念.....	1
物理コントロール・パネル.....	1
物理コントロール・パネルを使用したコントロール・パネル機能へのアクセス.....	3
物理コントロール・パネルを手動操作モードにする.....	3
コントロール・パネル機能コード.....	4
基本コントロール・パネル機能.....	7
機能 01: 選択した IPL タイプ、およびシステム操作モードの表示.....	7
機能 02: IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア・モードの選択.....	8
機能 03: IPL の再始動.....	10
機能 04: ランプ・テスト.....	11
機能 05 から 06 予約済み.....	11
機能 08: 高速電源オフ.....	11
機能 09 から 10: 予約済み.....	11
機能 11: SRC 表示 (ASCII 文字列).....	11
機能 12 SRC 表示 (16 進ワード 2 - 5).....	12
機能 13: SRC 表示 (16 進ワード 6 - 9).....	12
機能 14 から 19 まで: SRC 表示 (コールアウト).....	12
機能 20: システム・タイプ、モデル、フィーチャー・コード、および IPL タイプ.....	13
お客様拡張のコントロール・パネル機能.....	14
機能 21: サービス・ツールの開始.....	14
機能 22: 区画ダンプ.....	14
機能 23 から 24: 予約済み.....	14
機能 25 から機能 26.....	14
機能 27 から 29: 予約済み.....	15
機能 30: サービス・プロセッサの IP アドレスおよびポートの場所.....	15
機能 31 から 33: 予約済み.....	16
機能 34: 区画ダンプの再試行.....	16
機能 35 から 40: 予約済み.....	16
機能 41: 非中断プラットフォーム・システム・ダンプ.....	16
機能 42: プラットフォーム・システム・ダンプ.....	16
機能 43: サービス・プロセッサ・ダンプ.....	17
機能 44: 予約済み.....	18
機能 45: ノード識別 LED.....	18
機能 46: SMP ガイド付き取り付けの開始.....	18
機能 47: SMP ケーブルのスキップ.....	18
機能 48 - 54: 予約済み.....	18
機能 55: プラットフォーム・システム・ダンプ・データの表示および変更.....	18
機能 56 から 62: 予約済み.....	19
機能 63: システム状況 SRC の表示.....	20
機能 64: 診断状況 SRC の表示.....	20
機能 65: リモート・サービスの非活動化.....	21
機能 66: リモート・サービスの活動化.....	21
機能 67: ディスク装置 IOP のリセット/再ロード.....	21
機能 68: 並行保守 - 電源オフ.....	21
機能 69: 並行保守 - 電源オン.....	21
機能 70: IOP ダンプ.....	21

機能 71: ネットワーク・ブートの活動化.....	21
機能 72: ネットワーク・ブートの無効化.....	22
機能 73: 出荷時リセット.....	22
機能 74 から 99: 予約済み.....	23
IPL タイプおよびシステム操作モードの値.....	23
Flexible Service Processor (FSP) のブート失敗サポート.....	24

特記事項..... 25

IBM Power Systems サーバーのアクセシビリティ機能.....	26
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項	27
商標.....	27
電波障害規制特記事項.....	28
クラス A 表示.....	28
クラス B 表示.....	31
使用条件.....	33

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

レーザーに関する安全上の注意

IBM サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはフィーチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。



危険: システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- IBM から電源コードが供給されている場合は、その電源コードのみを使用して当装置を電源に接続します。IBM から供給された電源コードは、他の製品には使用しないでください。
- 電源装置アセンブリを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
 - AC 電源では、すべての電源コードをそれぞれの AC 給電部から切り離します。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP へのお客様の DC 電源を切断してください。
- 製品に電源を接続する際には、すべての電源ケーブルが適切に接続されていることを確認します。
 - AC 電源付きのラックでは、すべての電源コードを正しく配線され接地されたコンセントに接続します。電源コンセントから供給される電圧と相回転がシステムの定格銘板に従っていることを確認します。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源を PDP へ接続します。DC 電源および DC 電源帰線を接続する際に、必ず、適切な極性が使用されていることを確認してください。

- ・ ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- ・ シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- ・ 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- ・ 考えられる危険な状態がすべて修正されるまで、マシンへの電力をオンに切り替えようとしないでください。
- ・ 電気に関する安全上の問題が存在することを前提としてください。サブシステムの取り付け手順時に指定された導通、接地、および電源のチェックをすべて実行して、そのマシンが安全要件を満たしていることを確認してください。
- ・ なんらかの危険な状態が存在する場合は、検査を続行しないでください。
- ・ 装置のカバーを開ける前に、取り付けおよび構成の手順で別途指示されている場合を除き、接続されている AC 電源コードを切り離し、ラック電力配分パネル (PDP) 内の該当する回路ブレーカーの電源をオフにして、すべての通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離します。



危険:

- ・ ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. AC 電源では、コンセントから電源コードを取り外します。
3. DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオフにして、お客様の DC 電源から電力を除去します。
4. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
5. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. AC 電源では、電源コードをコンセントに接続します。
5. DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源からの電力を回復し、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオンにします。
6. デバイスの電源をオンにします。

鋭利な先端の部品やジョイントがシステムの中や周囲に存在している可能性があります。機器を取り扱う際には、指を切ったり、こすったり、挟んだりしないように注意してください。(D005)

(R001 パート 2 の 1):



危険: IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- ・ 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ・ ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- ・ スタビライザー・ブラケットがある場合は、必ずラック・キャビネットに取り付けてください。ただし、地震オプションを取り付ける場合は除きます。
- ・ 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ・ ラック・マウント型デバイスを柵やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに取り付けられた装置に寄りかかっ

たり、身体を安定させるため (はしごから作業を行うときなど) にそれらの装置を使用したりしないでください。



- 安定度の危険:
 - ラックがひっくり返って、重傷を引き起こす可能性があります。
 - ラックを取り付け位置に広げる前に、設置手順を読んでください。
 - 取り付け位置にマウントされているスライド・レールが装着済みの装置に負荷をかけないでください。
 - スライド・レールが装着済みの装置を取り付け位置に入れたままにしないでください。
- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付属していることがあります。
 - AC 電源付きのラックでは、保守作業中に電源を切り離す指示がある場合は、ラック・キャビネット内のすべての電源コードを必ず取り外してください。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、保守作業中に電源を切断するよう指示された場合、システム装置 (単数または複数) への電力を制御する回路ブレーカーをオフにするか、またはお客様の DC 電源を切断してください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。(R001 パート 2 の 1)

(R001 パート 2 の 2):



注意:

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れるために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。



- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の 指定がない限り、保守のために動かさないでください。 ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。(R001 パート 2 の 2)



注意: ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。 格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。 可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。 この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
 - 32U 位置以上にあるすべてのデバイスを取り外します。
 - 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
 - 受け取った構成で特に許可されていない限りは、ラック・キャビネット内で 32U のレベルより下に取り付けられたデバイス間には空の U レベルがない、またはほとんどないようにしてください。
- 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- 再配置するラック・キャビネットに取り外し可能なアウトリガーが取り付けられている場合は、アウトリガーを再配置してから、キャビネットを再配置する必要があります。
- 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。 搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 2083 mm 以上であることを確認します。
- すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、次の手順を実行します。
 - 4 つのレベル・パッドを下げます。
 - ラック・キャビネット上にスタビライザー・ブラケットを取り付けるか、地震環境ではラックを床にボルトで留めます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。 ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。 また、レベル・パッドを下げ、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

(L001)





危険：このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、強い電流が流れています。このラベルが付いているカバーまたはバリアは開けないでください。(L001)

(L002)

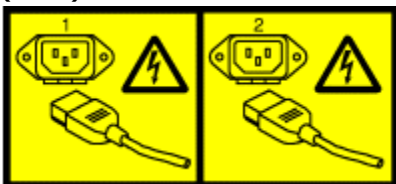


危険：ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに取り付けられた装置に寄り掛かったり、(はしごに乗って作業している場合などに) 体の位置を安定させるためにそれらの装置を使用したりしないでください。安定度の危険:

- ・ラックがひっくり返って、重傷を引き起こす可能性があります。
- ・ラックを取り付け位置に広げる前に、設置手順を読んでください。
- ・取り付け位置にマウントされているスライド・レールが装着済みの装置に負荷をかけないでください。
- ・スライド・レールが装着済みの装置を取り付け位置に入れたままにしないでください。

(L002)

(L003)



または



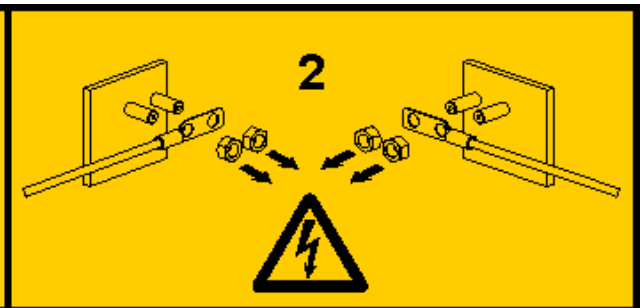
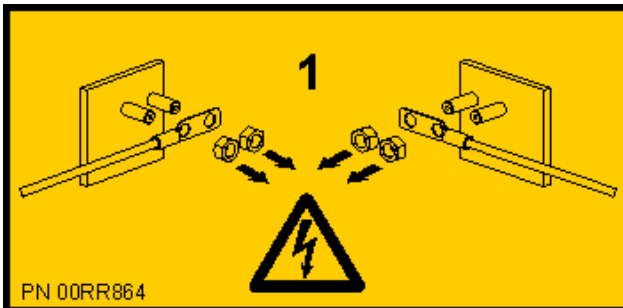
または



または



または



 **危険:** 複数の電源コード。この製品は複数の AC 電源コードや複数の DC 電源ケーブルを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するために、すべての電源コードと電源ケーブルを切り離してください。(L003)

(L007)



 **注意:** 近くに高温になる部品が存在します。(L007)

(L008)



注意: 近くに危険な可動部品があります。(L008)

すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各部品のラベルをご覧ください。



注意: この製品には、クラス 1 のレーザー製品である CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)



注意: データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。光ファイバーの導通を確認するために、切断された光ファイバーの一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んでも目に損傷を与えない可能性はありますが、このやり方は潜在的に危険です。そのため、一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んで光ファイバーの導通を確認することはお勧めしません。光ファイバー・ケーブルの導通を検査するには、光学式光源および電力メーターを使用してください。(C027)



注意: この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。(C028)



注意: 一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の情報に注意してください。

- カバーを開くとレーザー光線の照射があります。
- 光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。

(C030)

(C030)



注意: このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- 水に投げ込む、あるいは浸す
- 100°C を超える過熱
- 修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、IBM がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、1-800-426-4333 にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)



注意: IBM 提供のベンダー・リフト・ツールに関する注意:

- リフト・ツールの作業は、許可された担当者のみが行ってください。
- リフト・ツールは、ラックの高い位置での装置 (荷物) の補助、引き上げ、取り付け、取り外しに使用するためのものです。これは、装置を装着して大きなスロープを移送するために使用したり、パレット・ジャック、ウォーカー、フォーク・トラックなどの指定ツールや関連の再配置実施の代替として使用したりするためのものではありません。このような作業を実行できない場合は、特別な訓練を受けた担当員またはサービスを使用する必要があります (例えば、整備業者や運送業者など)。
- リフト・ツールを使用する前に、作業用者の資料を読んで完全に理解してください。よく読んで理解し、安全の規則に従い、手順に従って作業しないと、資産が損傷したり、作業者が負傷したりする可能性があります。質問がある場合は、ベンダーのサービスおよびサポートにお問い合わせください。ご使用の地域用の紙の資料は、マシンの近くの保管場所に保存しておく必要があります。最新リビジョンの資料は、ベンダーの Web サイトから入手可能です。
- 使用前には、毎回スタビライザーのブレーキ機能をテストして確認してください。スタビライザーのブレーキを固定した状態で、過剰な力でリフト・ツールを動かしたり回転させたりしてはなりません。
- スタビライザー (ブレーキ・ペダル・ジャック) が完全に固定されていない限り、プラットフォーム積載棚を上下左右に動かしてはなりません。使用も移動もしていない場合は、スタビライザーのブレーキを固定したままにしてください。
- わずかな位置決めを除き、プラットフォームが上がっている状態でリフト・ツールを移動させてはなりません。
- 定められた積載能力を超えてはなりません。引き伸ばされたプラットフォームの中央と端における最大積載量については、積載能力チャートを参照してください。
- 積載量が増加するのは、プラットフォームの中央に適切に配置されている場合のみです。スライドさせたプラットフォームの棚の端には、91 kg を超える装置を置いてはなりません。また、装置の重心も考慮する必要があります。
- プラットフォーム、傾斜ライザー、角度のあるユニット設置ウェッジ、その他の付属品オプションの隅に荷重をかけないでください。そのようなプラットフォーム (ライザー傾斜、ウェッジなどのオプション) は、使用する前に、提供されたハードウェアのみを使用して 4 つの位置すべて (4x またはその他のプロビジョン取り付け) にあるメイン・リフト棚または分岐点に固定します。積載オブジェクトは、大きな力を加えなくてもプラットフォーム上で簡単にスライドするように設計されているため、押しったり寄り掛かったりしないように注意してください。ライザー傾斜 (「調整可能な角度プラットフォーム」) オプションは、最終的な微調整 (必要な場合) を除き、常に平らな状態を維持してください。
- 突き出した積載の下には立たないでください。
- 表面に段差がある場所や傾斜 (大きなスロープ) では使用しないでください。
- 装置を積み重ねないでください。
- 薬物やアルコールの影響がある状態で操作を行ってはなりません。
- 踏み台をリフト・ツールに立てかけて支えてはなりません (このツールを使用した高さでの作業に対して認定された手順に従うものに特定のあそびが設けられている場合を除く)。
- 倒れる危険があります。プラットフォームが上がった状態で装置を押しったり寄り掛かったりしてはなりません。
- 人を持ち上げるためのプラットフォームや階段として使用してはなりません。人を乗せるためのものではありません。
- リフトのどの部分にも立ってはなりません。階段ではありません。
- マストに登ってはなりません。
- 損傷あるいは誤動作しているリフト・ツール・マシンを操作してはなりません。
- プラットフォームの下には、押し潰されたり挟まったりする危険な場所があります。装置を下ろす場合は、必ず人や障害物がない場所で行ってください。作業中は、手足に十分に注意してください。

- フォークではありません。パレット・トラック、ジャック、あるいはフォーク・リフトを使用して、むき出しのリフト・ツール・マシンを持ち上げたり移動したりしてはなりません。
- マストはプラットフォームより高い位置まで伸びます。天井の高さ、ケーブル・トレイ、スプリンクラー、電灯、およびその他の頭上にある物に注意してください。
- 装置を上げた状態でリフト・ツール・マシンから離れないでください。
- 装置が動作しているときは、手、指、衣類に十分に注意してください。
- ウィンチは、手の力のみで回転させてください。ウィンチ・ハンドルを片手で回すのが困難である場合は、荷重が大きすぎる可能性が高いです。プラットフォーム・トラベルの最上部または最下部を超えてウィンチを回さないでください。過度に巻き戻すと、ハンドルが外れてケーブルが損傷します。下げたり巻き戻したりする場合は、常にハンドルを保持してください。ウィンチ・ハンドルを離す前に、ウィンチが装置を保持していることを必ず確認してください。
- ウィンチの事故は、重傷の原因となる可能性があります。人を動かすためのものではありません。装置を引き上げる際には、クリック音が聞こえることを確認してください。ハンドルを離す前に、ウィンチが所定の位置にロックされていることを確認してください。このウィンチで作業する前に、手順を示すページをお読みください。絶対にウィンチが勝手に巻き戻ることがないようにしてください。ウィンチが勝手に回転すると、ケーブルが不規則にウィンチ・ドラムの周囲に巻かれたり、ケーブルが損傷したり、重傷の原因となる可能性があります。
- このツールは、IBM サービス担当員が使用するために、適切に維持する必要があります。IBM は、操作の前に状態を検査し、保守履歴を確認します。担当者は、不足がある場合に、このツールを使用しない権利を有します。(C048)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェースは、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するよう設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

DC 電源システムは、GR-1089-CORE に記載されているとおり、Common Bonding Network (CBN (共通ボンディング・ネットワーク)) に設置されることを意図したものです。

コントロール・パネル機能の管理

コントロール・パネル機能は、サーバーとの通信に使用します。コントロール・パネル機能は、状況 (初期プログラム・ロード (IPL) など) を表示する機能からサービス技術員のみがアクセスできるサービス機能まで、複雑多岐にわたります。

コントロール・パネル機能の管理の新着情報

このトピック・コレクションの前回の更新以降に、コントロール・パネル機能の管理に追加または大幅に変更された情報は次のとおりです。

2020 年 11 月

- [1 ページの『物理コントロール・パネル』](#)のトピックが更新されました。

2019 年 9 月

- コントロール・パネルの違いを示すよう [1 ページの『物理コントロール・パネル』](#)のトピックが更新されました。

2018 年 8 月

- コントロール・パネルの違いを示すよう [1 ページの『物理コントロール・パネル』](#)のトピックが更新されました。
- 以下の新しい機能コードに関する情報が追加されました。
 - [18 ページの『機能 45: ノード識別 LED』](#)
 - [18 ページの『機能 46: SMP ガイド付き取り付けの開始』](#)
 - [18 ページの『機能 47: SMP ケーブルのスキップ』](#)

2018 年 2 月

物理的なコントロール・パネルの外観に関する情報が更新されました。

コントロール・パネルの概念

コントロール・パネルの機能、IPL モードと値、およびその他の概要について説明します。

物理コントロール・パネル

物理コントロール・パネルは、サーバーとの初期インターフェースです。物理コントロール・パネルを使用して、IPL、電源オン、および電源オフなどの機能を実行することができます。

コントロールパネルには、次の 2 つの部分があります。

- ベース・パネル
- LCD パネル

ベース・パネルは、必須パネルであり、システムの電源をオンにしたりオフにしたりするのに使用します。LCD パネルは、オプションであり、他の機能に使用します。9040-MR9 システムでは、ベース・パネルと LCD パネルは、別々の装置内にあります (図 1 を参照)。ベース・パネルと LCD パネルはどちらも、並行保守で取り付けと取り外しが可能です。それに対し、9080-M9S システムでは、ベース・パネルと LCD パネルは、1 つの単一装置内にあります。5105-22E、9008-22L、9009-22A、9009-22G、9009-41A、9009-41G、9009-42A、9009-42G、9223-22H、9223-22S、9223-42H、または 9223-42S の各システムでは、ベース・パネルは固定されており、LCD パネルはホット・プラグです。

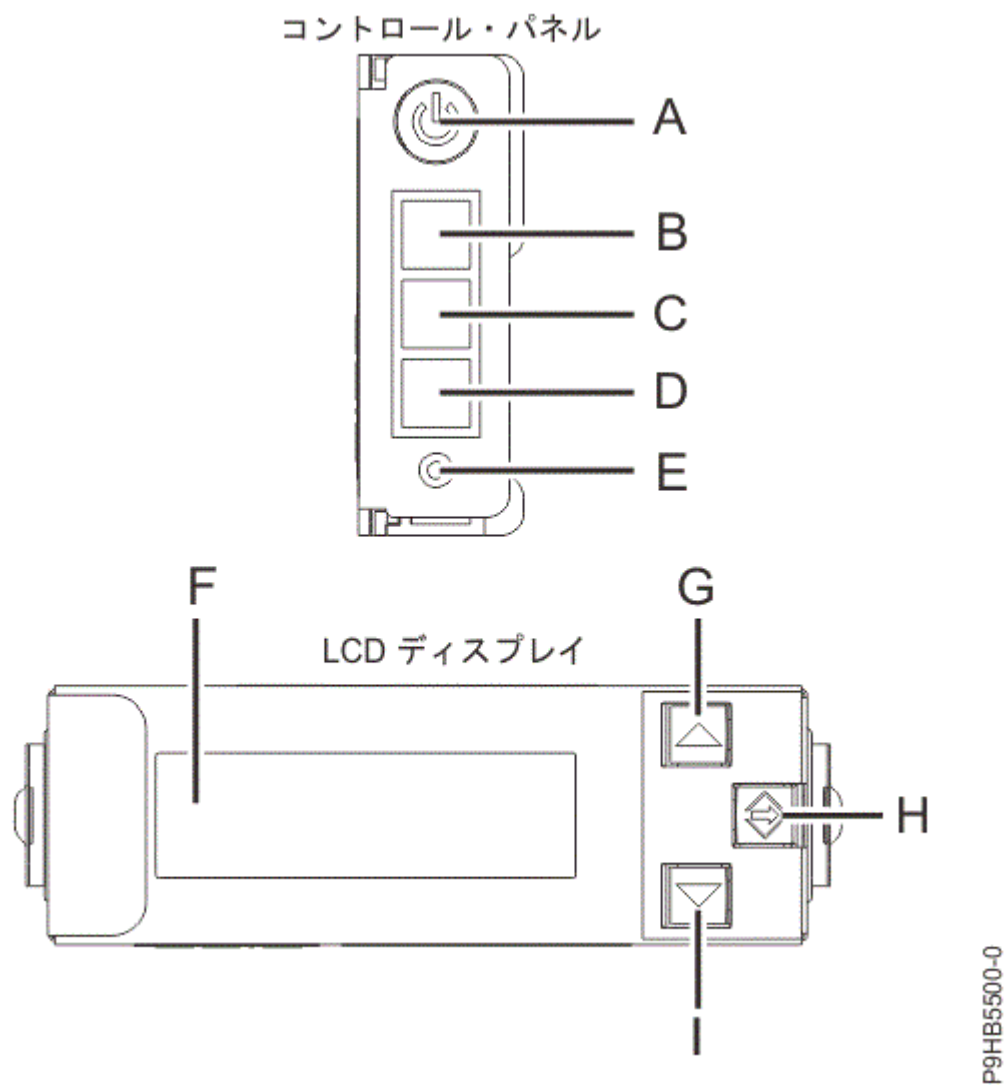


図 1. コントロール・パネル

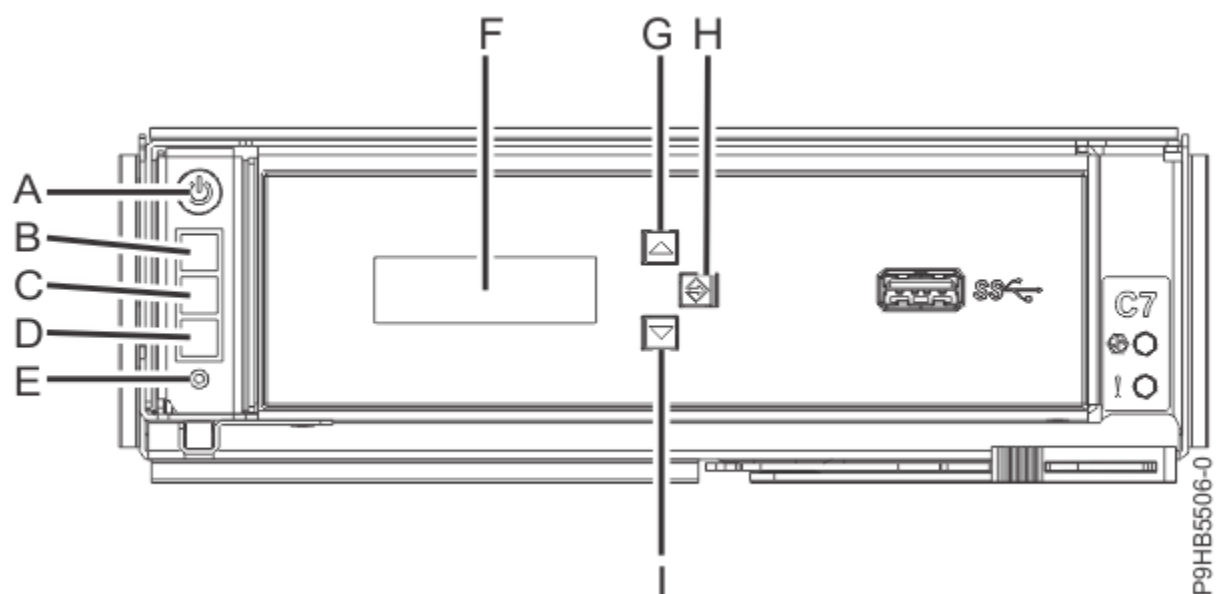


図 2. コントロール・パネル

- **A:** 電源オン・ボタン
 - ライトが常時点灯している場合、装置に完全なシステム電源が供給されていることを示します。
 - ライトが明滅している場合、装置にスタンバイ電源が供給されていることを示します。
 - 電源オン・ボタンを押すと、約 30 秒の遷移時間で、電源 LED が明滅から常時点灯に変わります。この状態移行期間中は、LED が速く明滅する場合があります。
- **B:** エンクロージャー識別ライト
 - 常時点灯している場合は識別状態を示します。これは部品の識別に使用されます。
 - 点灯していない場合、システムが正常に作動していることを示します。
- **C:** ログ・ライトの検査
 - 点灯していない場合、システムが正常に作動していることを示します。
 - 常時点灯しているライトは、システムへの注意が必要であることを示します。
- **D:** エンクロージャー障害ライト
 - 常時点灯している場合、システム装置に障害があることを示します。
 - 点灯していない場合、システムが正常に作動していることを示します。
- **E:** ピンホール・リセット (PHR) ・ボタン
- **F:** 機能表示
- **G:** 増分ボタン
- **I:** 減分ボタン
- **H:** Enter ボタン

物理コントロール・パネルを使用したコントロール・パネル機能へのアクセス

コントロール・パネル機能はコントロール・パネルに記されている機能番号に対応しています。

このタスクについて

コントロール・パネル機能を活動化するには、以下のステップを実行します。

手順

1. コントロール・パネルで増分(↑)または減分(↓) ボタンを押して、機能番号を選択します。
2. コントロール・パネルで Enter を押して、目的の機能を活動化します。

物理コントロール・パネルを手動操作モードにする

一定の機能を選択または活動化するには、まず、物理コントロール・パネルを手動操作モードにします。

このタスクについて

物理コントロール・パネルを手動操作モードにするには、以下の手順を実行してください。

手順

1. 増分ボタン(↑)を使用して機能 02 にスクロールします。

```
0 2 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _
_ _ _ _ _ _ _ _ _ _
```

2. 機能 02 を開始するには Enter キーを押します。
3. Enter キーを再び押して、機能 02 メニュー上の 2 番目の文字に移動します。

次の例で示されるように、現行のシステム操作モードがポインターと共に表示されます。

```
0 2 _ _ B _ _ N < _ _ _ _
_ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _
```

4. 次の例に示すように、増分ボタン(↑)を使用してシステム操作モードをスクロールし、手動「M」を選択します。

```
0 2 _ _ B _ _ M < _ _ _ _ P _ _ _  
_ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _
```

5. システム操作モードを選択するには Enter キーを押します。
6. 機能 02 を終了するには Enter キーを再び押します。

タスクの結果

コントロール・パネルが手動操作モードになりました。

コントロール・パネル機能コード

コントロール・パネルに表示される、状況および機能オプションを示す機能コードについて説明します。

すべての機能を表示するには、コントロール・パネルを手動操作モードにします。詳しくは、『[物理コントロール・パネルを手動操作モードにする](#)』を参照してください。

次の表には、基本およびお客様拡張のコントロール・パネル機能コードの説明が記載してあります。

表 1. 基本およびお客様拡張のコントロール・パネル (32 文字) 機能コード	
機能コード	選択された機能
01	現行の IPL パラメーターを表示します。 この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
02	IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択するために使用されます。この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
03	選択された IPL パラメーターを使用してシステムの IPL を再始動します。この機能は、手動操作モードで、かつシステム電源がオンである場合に限り使用可能です。
04	ランプ・テストを実行します。すべてのディスプレイおよびインジケーターが点灯します。この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で選択可能です。
05 - 06	予約済み。
08	高速電源オフを行います。この機能はシステムが手動操作モードで、かつシステム電源がオンである場合に限り使用可能です。
09 - 10	予約済み。
11	ASCII 文字 (16 進数以外の文字を含む) を最大 32 文字使用して、コントロール・パネルにシステム参照コード (SRC) を表示します。SRC が使用可能な場合、この機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
12	最大 4 個の拡張 SRC データ・ワードを使用して、コントロール・パネルに SRC を表示します。SRC が使用可能な場合、この機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

表 1. 基本およびお客様拡張のコントロール・パネル (32 文字) 機能コード (続き)	
機能コード	選択された機能
13	最大 8 個の拡張 SRC データ・ワードを使用して、コントロール・パネルに SRC を表示します。SRC が使用可能な場合、この機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
14 - 19	コールアウト・データを使用して、コントロール・パネルに SRC を表示します。SRC が使用可能な場合、これらの機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
20	マシン・タイプとモデル、VPD カード CCIN、および IPL タイプを表示します。この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。
21	System i モデルに対しては、「専用保守ツールの使用」(DST) 画面がシステム・コンソールに表示されるようにします。DST を終了するには、「オペレーティング・システム表示の再開 (Resume operating system display)」オプションを選択します。この機能は、手動操作モードで、かつ IBM i オペレーティング・システムにより活動化された場合に限り、使用可能です。サーバーには適用されません。
22	区画ダンプを強制的に行います。この機能は、手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。
23 - 24	予約済み。
25 - 26	サービス・スイッチ 1 および 2 を使用して、機能 50 から 99 を使用可能または使用不可に設定します。これらの機能は手動操作モードに限り使用可能です。
27 - 29	予約済み。
30	サービス・プロセッサ IP アドレスおよびポートの場所を表示します。この機能は手動操作モード、およびスタンバイに限り使用可能です。 注：IPv6 が表示された場合、サービス・プロセッサのネットワーク・ポートは IPv6 IP アドレスで構成されています。コントロール・パネルに文字が足りないため、完全なアドレスを表示することができません。
31 - 33	予約済み。
34	区画ダンプを再試行します。この機能は、手動操作モードで、かつファームウェアにより活動化された場合に限り使用可能です。
35 - 40	予約済み。
41	非中断プラットフォーム・システム・ダンプを開始します。この機能は、手動操作モードで、かつシステム・プロセッサにより活動化された場合に限り使用可能です。
42	プラットフォーム・ダンプを実行します。この機能は、手動操作モードで、かつシステム・プロセッサにより活動化された場合に限り使用可能です。
43	サービス・プロセッサ・ダンプを実行します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。

表 1. 基本およびお客様拡張のコントロール・パネル (32 文字) 機能コード (続き)	
機能コード	選択された機能
44	予約済み。
45	この機能は、ノード 識別 LED の明滅を開始します。この機能は、手動操作モードでのみ使用可能であり、システムはスタンバイ状態になっている必要があります。
46	この機能は、SMP ケーブルのための LED ガイド付き取り付け手順を開始します。この機能は、手動操作モードでのみ使用可能であり、システムはスタンバイ状態になっている必要があります。
47	この機能は、取り付け中に SMP ケーブルをスキップします。この機能コードは、機能コード 46 が実行している場合に限り活動化されます。
48 から 54	予約済み。
55	プラットフォーム・システム・ダンプ収集ポリシー、プラットフォーム・システム・ダンプ・ハードウェアの内容、およびプラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容の設定を表示または変更します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
56 - 62	システム・ファームウェア・レベル Ax710 で実行されているシステムでは予約済みです。
63	最大で最新の 25 のシステム 状況 SRC を表示します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
64	最大で最新の 25 の診断状況 SRC を表示します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
65	リモート・サービス・セッションを非活動化します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
66	リモート・サービス・セッションを活動化します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
67	IOP ダンプおよびディスク装置 I/O のリセット/再ロードを開始します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
68	電源ドメインの電源をオフにして、システムが電源オンのとき (並行) の IOP および IOA の取り替えに影響を及ぼします。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
69	電源ドメインの電源をオンにして、システムが電源オンのとき (並行) の IOP および IOA の取り替えに影響を及ぼします。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
70	IOP ダンプを開始します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。
71	ネットワーク・ブートを活動化します。この機能は、PowerVM がハイパーバイザーであり、技術員 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合に、手動操作モードでのみ使用可能です。
72	ネットワーク・ブートを無効にします。この機能は、PowerVM がハイパーバイザーであり、技術員 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合に、手動操作モードでのみ使用可能です。

表 1. 基本およびお客様拡張のコントロール・パネル (32 文字) 機能コード (続き)	
機能コード	選択された機能
<u>73</u>	出荷時リセット。この機能は、プラットフォームが電源オフになっている場合にのみ使用可能です。この機能は、手動操作モードで、技術員 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合にのみ使用可能です。
<u>74 から 99</u>	予約済み。

この表で機能コードが見つからない場合、この情報の作成時に、追加された機能またはデバイスが提供されていなかった可能性があります。コントロール・パネル上で、表示した機能コードに関する装置機能コードの補足情報を探してください。

関連タスク

物理コントロール・パネルを手動操作モードにする

一定の機能を選択または活動化するには、まず、物理コントロール・パネルを手動操作モードにします。

基本コントロール・パネル機能

基本コントロール・パネル機能は、選択された IPL タイプの表示、ファームウェア・モードの選択、または IPL の再始動を含みます。

機能 01: 選択した IPL タイプ、およびシステム操作モードの表示

この機能により、現在のシステム操作モード、次回の IPL 用のファームウェア・モード、およびオペレーティング・システムの IPL モード (使用可能な場合) を表示できます。

この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

この機能は次の情報を表示します。

- オペレーティング・システム (OS) IPL タイプ (A、B、C、または D)。
- 有効なシステム操作モード (M または N)。
- ファームウェア・モード (P または T)。
- HMC インディケーター (1 または 0)
- ハイパーバイザー・タイプ (PVM (Power® Virtualization Manager) または OPAL (Open Power Abstraction Layer))

表 2. システムで OS IPL が使用可能になっていない場合の機能 01	
機能/データ	アクションまたは説明
0 1 _	増分または減分のボタンを使用して機能 01 にスクロールします。
0 1 _ _ A _ _ N _ _ _ _ PVM _ _ HMC=1 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ T _ _ _	有効な OS IPL モードは A、B、C、および D です。 有効なシステム操作モードは M および N です。 有効なハイパーバイザー・タイプは PVM および OPAL です。 有効なファームウェア IPL モードは P および T です。 HMC インジケーター: アクティブ (1)、非アクティブ (0)。
0 1 _	増分または減分のボタンを使用してコントロール・パネル機能をスクロールします。

機能 02: IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア・モードの選択

システム・ファームウェア・レベル Ax710 で実行されているシステムでは、システムが電源オンまたは電源オフのいずれの場合も、この機能を使用して IPL タイプおよび論理キー・モードを選択できます。

この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

システムが電源オンの場合、機能 02 は、オペレーティング・システム (OS) IPL タイプ、システム操作モード、またはファームウェア IPL モードを選択するために使用されます。以下の表では、電源オンのシステムで、機能 02 IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択する手順の例が示されています。

表 3. 機能 02: 電源オンされたシステムで IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択	
機能/データ	アクションまたは説明
0 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 02 にスクロールします。
0 2 _ _ A < _ M _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _	機能 02 を開始するには Enter キーを押します。 • 現行の OS IPL タイプがポインターと共に表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア・モードが表示されます。
0 2 _ _ B < _ M _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して OS IPL タイプをスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ M < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _	OS IPL タイプを選択するには Enter キーを押します。 • 現行の OS IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードがポインターと共に表示されます。 • 現行のファームウェア・モードが表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してシステム操作モードをスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P < _ _ _	システム操作モードを選択するには Enter キーを押します。 • 現行の OS IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア・モードがポインターと共に表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ T < _ _ _	増分または減分のボタンを使用してファームウェア IPL モードをスクロールします。
0 2 _	Enter キーを押してファームウェア IPL モードを選択し、機能 02 を終了します。
0 1 _	増分または減分のボタンを使用してコントロール・パネル機能をスクロールします。

システムが電源オフの場合、機能 02 は、OS IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択するために使用されます。以下の表では、電源オフのシステムで、機能 02 OS IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択する手順の例が示されています。

表 4. 機能 02: 電源オフされたシステムで IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択	
機能/データ	アクションまたは説明
0 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 02 にスクロールします。
0 2 _ _ A < _ M _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ T _ _ _ _	機能 02 を開始するには Enter キーを押します。 • 現行の OS IPL タイプがポインターと共に表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア IPL モードが表示されます。
0 2 _ _ B < _ M _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ T _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して OS IPL タイプをスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ M < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ T _ _ _ _	IPL タイプを選択するには Enter キーを押します。 • 現行の IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードがポインターと共に表示されます。 • 現行のファームウェア IPL モードが表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ T _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してシステム操作モードをスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ T _ _ _ _	システム操作モードを選択するには Enter キーを押します。 • 現行の IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア IPL モードが表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P < _ _ _	増分または減分のボタンを使用してファームウェア IPL モードをスクロールします。
0 2 _	Enter キーを押してファームウェア IPL モードを選択し、機能 02 を終了します。
0 1 _	増分または減分のボタンを使用してコントロール・パネル機能をスクロールします。

システム・ファームウェア・レベル Ax720 以降で実行されているシステムでは、この機能を使用してオペレーティング・システム IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードを選択できます。

表 5. 機能 02: IPL タイプ、システム操作モード、およびファームウェア IPL モードの選択	
機能/データ	アクションまたは説明
0 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 02 にスクロールします。
0 2 _ _ A < _ M _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _	機能 02 を開始するには Enter キーを押します。 • 現行のオペレーティング・システム IPL タイプがポインターと共に表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア・モードが表示されます。
0 2 _ _ B < _ M _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してオペレーティング・システム IPL タイプをスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ M < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _	オペレーティング・システム IPL タイプを選択するには Enter キーを押します。 • 現行のオペレーティング・システム IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードがポインターと共に表示されます。 • 現行のファームウェア・モードが表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N < _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用してシステム操作モードをスクロールします。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P < _ _ _	システム操作モードを選択するには Enter キーを押します。 • 現行のオペレーティング・システム IPL タイプが表示されます。 • 現行のシステム操作モードが表示されます。 • 現行のファームウェア・モードがポインターと共に表示されます。
0 2 _ _ B _ _ N _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ P < _ _ _	増分または減分のボタンを使用してファームウェア IPL モードをスクロールします。
0 2 _	Enter キーを押してファームウェア IPL モードを選択し、機能 02 を終了します。
0 1 _	増分または減分のボタンを使用してコントロール・パネル機能をスクロールします。

機能 03: IPL の再始動

この機能は、選択された IPL パラメーターを使用してシステムの IPL を再始動します。

この機能は、手動操作モードで、かつシステム電源がオンである場合に限り使用可能です。

機能 03 を選択して Enter キーを押すと、アクション確認 SRC (A1008003) のほか、メッセージ **RESTART SERVER** が表示されます。「IPL オペレーションを再始動」を実行する場合は、再度機能 03 を選択し、Enter キーを押してください。

IPL を再始動する前に通知する必要はありません。

機能 04: ランプ・テスト

この機能は、正常に機能していないコントロール・パネル・インジケーターがあるかどうかを示します。また、コントロール・パネルの機能/データ・ディスプレイに表示される文字が有効かどうかを示します。

この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

ランプ・テストが開始されると、中央電子処理装置 (CEC) および拡張装置内のファームウェア制御インジケーターが 4 分間点灯した後、前の状態に戻ります。

以下の手順を使用して、システム・コントロール・パネルのライトが正常に作動しているかどうかを検査します。

1. システムを電源オンします。
2. コントロール・パネルで増分 (↑) または減分 (↓) ボタンを押して、機能 04 を表示します。
コントロール・パネルで Enter キーを押します。
3. システム・コントロール・パネルにあるすべてのライトとインジケーターがオンになりますか？

はい	いいえ
↓	障害のある LED インジケーターが付いている FRU を交換します。例えば、ファン上の LED がオンにならない場合は、ファンを交換します。

4. 拡張装置のコントロール・パネルのすべてのライトがオンになりますか？

注：拡張装置のコントロール・パネルのライトは、機能 04 に入ってから約 25 秒だけ点灯します。

はい	いいえ
システム・コントロール・パネルのライトは正常に作動しています。	拡張装置のコントロール・パネルを交換します。

機能 05 から 06 予約済み

この機能は予約済みです。

機能 08: 高速電源オフ

この機能により、システムが中断状態のときに、システムを電源オフできます。この機能は、システムが手動操作モードで、かつシステム電源がオンの場合に限り使用可能です。

機能 08 を選択して Enter キーを押すと、アクション確認 SRC (A1008008) のほか、メッセージ **SHUTDOWN SERVER** が表示されます。高速電源オフ (FPO) を実行する場合は、再度機能 08 を選択し、Enter キーを押してください。高速電源オフの後、システムはデフォルト表示に戻ります。

注：この機能は、データを失う原因になる可能性があるため、システムのシャットダウンをオペレーティング・システムから実行できる場合は、使用しないでください。

注：最新の IPL でシステム・パスワードを変更した場合、高速電源オフを実行すると新規パスワード情報が失われる原因になります。

機能 09 から 10: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 11: SRC 表示 (ASCII 文字列)

この機能は、最大 32 個の ASCII 文字 (16 進数以外の文字を含む) を使用して、コントロール・パネルにシステム参照コード (SRC) を表示します。その文字数によっては、それだけで表示域がいっぱいになる場合があります。この機能は、ハードウェアまたはオペレーティング・システムの問題の原因を判別する上で役立つ診断を支援するために機能します。

この機能は、デフォルトの SRC 表示で、SRC が使用可能な場合、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

機能 11 は使用可能な場合、SRC のワードを表します。

エラー報告のために SRC 情報を記録します。

関連情報

[コントロール・パネルを使用した参照コードおよびシステム情報の収集](#)

機能 12 SRC 表示 (16 進ワード 2 - 5)

この機能は、システム参照コード (SRC) をコントロール・パネルに表示し、ハードウェアまたはオペレーティング・システムの問題の原因判別に役立つ診断を支援するために機能します。

SRC が使用可能な場合、この機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

拡張 SRC データ・ワードは SRC 内の番号に応じて表示されます。拡張 SRC データ・ワードは一度に 4 ワード表示されます。拡張 SRC データ・ワードがある場合、機能 12 はスクロール可能です。未使用ワードは、表示が必要な場合ブランクで表示されます。

エラー報告のために SRC 情報を記録します。詳しくは、『[コントロール・パネルを使用した参照コードおよびシステム情報の収集](#)』を参照してください。

機能 13: SRC 表示 (16 進ワード 6 - 9)

この機能は、システム参照コード (SRC) をコントロール・パネルに表示し、ハードウェアまたはオペレーティング・システムの問題の原因判別に役立つ診断を支援するために機能します。

SRC が使用可能な場合、この機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

拡張 SRC データ・ワードは SRC 内の番号に応じて表示されます。拡張 SRC データ・ワードは一度に 4 ワード表示されます。拡張 SRC データ・ワードの数が小さく 1 つから 4 つまでの場合、機能 13 はスクロール可能になりません。拡張 SRC データ・ワードの数が 5 つから 8 つまでの場合、機能 13 はスクロール可能です。未使用ワードは、表示が必要な場合ブランクで表示されます。

エラー報告のために SRC 情報を記録します。

関連情報

[コントロール・パネルを使用した参照コードおよびシステム情報の収集](#)

機能 14 から 19 まで: SRC 表示 (コールアウト)

これらの機能は、システム参照コード (SRC) をコントロール・パネルに表示し、ハードウェアまたはオペレーティング・システムの問題の原因判別に役立つ診断を支援するために機能します。

SRC が使用可能な場合、これらの機能は通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

機能 14 から 19 までは使用可能な場合、現場交換可能ユニット (FRU) およびプロシージャ・コールアウト・データを表示します。このデータは、拡張 SRC データ・ワードがあれば後に付けて表示されます。複数 FRU およびプロシージャ・コールアウト・データ・エントリーは、各 SRC に含まれている場合があります。1 つの FRU またはプロシージャ・コールアウト・データ・エントリーは、各機能番号に対して表示されます。機能 14 から 19 までを使用して、最大 6 つの異なる FRU またはプロシージャ・コールアウト・データ・エントリーをコントロール・パネルに表示できます。

次の表に機能 14 FRU コールアウト表示選択順序の例を示します。

表 6. 機能 14: FRU コールアウト表示選択順序	
機能/データ	アクションまたは説明
1 4 _	増分または減分のボタンを使用して機能 14 にスクロールします。
H _ -PARTNUM_ CCIN_ _ U970305010ABCDE- _ _ _	Enter キーを押して機能 14 を選択します。FRU コールアウト・データが表示されます。

表 6. 機能 14: FRU コールアウト表示選択順序 (続き)	
機能/データ	アクションまたは説明
1 4 _	Enter を押すと、機能表示とデータ表示が切り替わります。

次の表に機能 15 プロシージャ・コールアウト表示選択順序の例を示します。

表 7. 機能 15: プロシージャ・コールアウト表示選択順序	
機能/データ	アクションまたは説明
1 5 _	増分または減分のボタンを使用して機能 15 にスクロールします。
M_ -FSPSP04_ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 15 を選択します。プロシージャ・コールアウト・データが表示されます。
1 5 _	Enter を押すと、機能表示とデータ表示が切り替わります。

エラー報告のために SRC 情報を記録します。

関連情報

[コントロール・パネルを使用した参照コードおよびシステム情報の収集](#)

機能 20: システム・タイプ、モデル、フィーチャー・コード、および IPL タイプ

この機能は、マシン・タイプとモデル、重要プロダクト・データ (VPD) カードのカスタム・カード識別番号 (CCIN)、および IPL タイプを表示します。この機能は、通常操作モードと手動操作モードの両方で使用可能です。

マシン・タイプ、モデル、VPD カードの CCIN、および IPL タイプは、次の形式で表示されます。

```
p p p p - m m m _ _ _ _ c c c c
T T T T T T T T t t t t t t t t
```

その値は次のように表されます。

- *p* の値はマシン・タイプを示します。
- *m* の値はマシン・モデルを示します。
- *c* の値はシステム VPD カードの CCIN を示します。
- *T* の値は CEC IPL タイプを示します。
- *t* の値は FSP IPL タイプを示します。

この情報はシステム参照コード (SRC) と共に記録します。

この機能を選択しても活動化されない場合、コマンドはリジェクトされます。

お客様拡張のコントロール・パネル機能

お客様拡張コントロール・パネルの機能には、区画ダンプ、サービス・プロセッサ IP アドレス、およびポートの場所が含まれます。

機能 21: サービス・ツールの開始

System i モデルでは、この機能は、システム・コンソール・ディスプレイで専用保守ツール (DST) を使用可能にします。System p サーバーの場合は、適用されません。

この機能は、手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。

「専用保守ツール (DST) の使用」画面が基本または代替コンソールに表示されます。

DST を終了してオペレーティング・システムに戻るには、「専用保守ツール (DST) の使用」表示で「オペレーティング・システム表示の再開 (Resume operating system display)」オプションを選択します。

機能 22: 区画ダンプ

この機能は、論理区画内のオペレーティング・システム・データのダンプを開始します。

この機能は、手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。

区画ダンプを開始するには、2 つの連続した機能 22 の選択を実行する必要があります。以下の表に、機能 22 の例を示します。

表 8. 機能 22: 区画ダンプの開始	
機能/データ	アクションまたは説明
2 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 22 にスクロールします。
2 2 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 22 を開始します。
A 1 0 0 3 0 2 2 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	区画ダンプ検査のシステム参照コード (SRC) を表示します。
2 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 22 にスクロールします。
2 2 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 22 を開始します。

機能 23 から 24: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 25 から機能 26

これらの機能は、サービス機能の範囲 (50 から 99) を設定するために使用されます。これらの機能は手動操作モードに限り使用可能です。

サービス機能の範囲 (50 から 99 まで) を設定するには、最初に、機能 25 から機能 00 までを設定してから、機能 26 から機能 00 までを設定します。

機能 27 から 29: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 30: サービス・プロセッサの IP アドレスおよびポートの場所

この機能は、サービス・プロセッサ IP アドレスおよびポートの場所を表示します。この機能はパワーオン・スタンバイから、手動操作モードに限り使用可能です。

注：コントロール・パネルに IPv6 が表示された場合、サービス・プロセッサのネットワーク・ポートは IPv6 IP アドレスで構成されています。コントロール・パネルに文字が足りないため、完全なアドレスを表示することができません。

以下の表に機能 30 の例を示します。

表 9. 機能 30: サービス・プロセッサの IP アドレスおよびポートの場所	
機能/データ	アクションまたは説明
3 0 _	増分または減分のボタンを使用して機能 30 にスクロールします。
3 0 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードに入ります。
3 0 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して IP アドレスを選択します。 00 = SP A: ETH0 (1 次エンクロージャー) 01 = SP A: ETH1 (1 次エンクロージャー) 02 = SP B: ETH0 (2 次エンクロージャー) 03 = SP B: ETH1 (2 次エンクロージャー)
S P _ A : _ E T H 0 : _ _ _ T 5 9 . 5 . 1 0 5 . 2 4 3 _ _ _ _ _	選択した IP アドレスを表示するには、Enter キーを押します。
3 0 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、副次機能出口を選択します。
3 0 _	Enter キーを押して、副次機能モードを終了します。

機能 31 から 33: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 34: 区画ダンプの再試行

この機能は、論理区画内のオペレーティング・システム・データのダンプを再試行を開始します。この機能は、手動操作モードで、かつファームウェアにより活動化された場合に限り使用可能です。

機能 35 から 40: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 41: 非中断プラットフォーム・システム・ダンプ

この機能は、非中断プラットフォーム・システム・ダンプを開始します。この機能は、手動操作モードで、かつサービス・プロセッサにより活動化された場合にのみ使用可能です。

機能 41 を使用すると、IBM POWER® Hypervisor™ 主ストレージ・データのダンプを取ることができます。以下の表に、機能 41 の例を示します。

表 10. 機能 41: プラットフォーム・ダンプの開始	
機能/データ	アクションまたは説明
4 1 _	増分または減分のボタンを使用して機能 41 にスクロールします。
4 1 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	機能 41 を開始するには Enter キーを押します。
A 1 0 0 3 0 4 1 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	確認 SRC を表示します。
4 1 _	増分または減分のボタンを使用して機能 41 にスクロールします。
4 1 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	機能 41 を開始するには Enter キーを押します。

機能 42: プラットフォーム・システム・ダンプ

この機能は、プラットフォーム・システム・ダンプを開始します。この機能は、手動操作モードで、かつサービス・プロセッサにより活動化された場合にのみ使用可能です。

機能 42 を使用すると、IBM POWER Hypervisor™ 主ストレージ・データおよびハードウェア・データのダンプを取ることができます。プラットフォーム・システム・ダンプを開始するには、2 つの連続した機能 42 の選択を実行する必要があります。以下の表に、機能 42 の例を示します。

表 11. 機能 42: プラットフォーム・システム・ダンプの開始	
機能/データ	アクションまたは説明
4 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 42 にスクロールします。
4 2 _ _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 42 を開始します。

表 11. 機能 42: プラットフォーム・システム・ダンプの開始 (続き)	
機能/データ	アクションまたは説明
A 1 0 0 3 0 4 2 _ _ _ _ _	確認 SRC を表示します。
4 2 _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して機能 42 にスクロールします。
4 2 _ _ _ 0 0 _ _ _ _ _	Enter キーを押して機能 42 を開始します。

機能 43: サービス・プロセッサ・ダンプ

この機能は、サービス・プロセッサ・ダンプを開始します。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。

サービス・プロセッサ・ダンプを開始するには、2 つの連続した機能 43 の選択を実行する必要があります。以下の表に機能 43 の例を示します。

表 12. 機能 43: サービス・プロセッサ・ダンプの開始	
機能/データ	アクションまたは説明
4 3 _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して機能 43 にスクロールします。
4 3 0 0 _ _ _ _ _	Enter キーを押して確認します。
A 1 0 0 3 0 4 3 _ _ _ _ _	確認システム参照コード (SRC) を表示します。
4 3 _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して機能 43 にスクロールします。
4 3 0 0 _ _ _ _ _	Enter キーを押して確認します。

機能 44: 予約済み

この機能は予約済みです。

機能 45: ノード識別 LED

この機能は、ノード 識別 LED を明滅させます。この機能は、手動操作モードでのみ使用可能であり、システムはスタンバイ状態になっている必要があります。この機能は、9080-M9S システムの場合に限り使用可能です。

機能 46: SMP ガイド付き取り付けの開始

この機能は、SMP ケーブルのための LED ガイド付き取り付け手順を開始します。この機能は、手動操作モードでのみ使用可能であり、システムはスタンバイ状態になっている必要があります。この機能は、9080-M9S システムの場合に限り使用可能です。

機能 47: SMP ケーブルのスキップ

この機能は、取り付け中に SMP ケーブルをスキップします。この機能コードは、機能コード 46 が実行されている場合に限り活動化できます。この機能は、9080-M9S システムの場合に限り使用可能です。

機能 48 - 54: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

機能 55: プラットフォーム・システム・ダンプ・データの表示および変更

この機能によって、プラットフォーム・システム・ダンプ・データを表示および変更できます。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。

機能 55 を選択して Enter を押すと、プラットフォーム・システム・ダンプ収集ポリシー、プラットフォーム・システム・ダンプ・ハードウェアの内容、およびプラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容の設定を表示および変更できます。

次の表にプラットフォーム・システム・ダンプ・データを表示する方法の例を示します。

表 13. 機能 55: プラットフォーム・システム・ダンプ・データの表示	
機能/データ	アクションまたは説明
5 5 _	増分または減分のボタンを使用して機能 55 にスクロールします。
5 5 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードに入ります。
5 5 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、プラットフォーム・システム・ダンプ変数を表示します。
5 5 0 0 _ xxyyzz _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、選択した副次機能を処理します。 xx = 収集ポリシー yy = ハードウェアの内容 zz = ファームウェアの内容
5 5 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、副次機能出口を選択します。
5 5 _	Enter キーを押して、副次機能モードを終了します。

次の表にプラットフォーム・システム・ダンプ・データを変更する方法の例を示します。

表 14. 機能 55: プラットフォーム・システム・ダンプ・データの変更	
機能/データ	アクションまたは説明
5 5 _	増分または減分のボタンを使用して機能 55 にスクロールします。
5 5 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードに入ります。
5 5 0 2 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、プラットフォーム・システム・ダンプ変数の変更を選択します。 01 = プラットフォーム・システム・ダンプ収集ポリシーを <i>disable</i> に設定 02 = プラットフォーム・システム・ダンプ収集ポリシーを <i>enable</i> に設定 03 = 適用外 - 選択すると常に行 1 に FF を表示 04 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ハードウェアの内容を <i>maximum</i> に設定 05 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ハードウェアの内容を <i>automatic</i> に設定 06 = 適用外 - 選択すると常に行 1 に FF を表示 07 = 適用外 - 選択すると常に行 1 に FF を表示 08 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>automatic</i> に設定 09 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>maximum</i> に設定 10 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>physical I/O</i> に設定 11 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>virtual I/O</i> に設定 12 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>HPS cluster</i> に設定 13 = プラットフォーム・システム・ダンプ・ファームウェアの内容を <i>Host Channel Adapter (HCA)</i> に設定
5 5 0 2 _ 0 0 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、選択した副次機能を処理します。 00 = Accept FF = Reject
5 5 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、副次機能出口を選択します。
5 5 _	Enter キーを押して、副次機能モードを終了します。

機能 56 から 62: 予約済み

システム・ファームウェア・レベル Ax810 を実行しているシステムでは、機能 56 から 62 は予約済みです。

機能 63: システム状況 SRC の表示

機能 63 を選択して Enter を押すと、最新のシステム状況 SRC を最高 25 まで表示できます。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。

次の表に最新の 25 個のシステム状況 SRC を表示する方法の例を示します。

表 15. 機能 63: システム状況 SRC の表示	
機能/データ	アクションまたは説明
6 3 _	増分または減分のボタンを使用して機能 63 にスクロールします。
6 3 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードに入ります。
6 3 1 8 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分ボタンを使用してアドレス・オフセットを選択します。 注 : 00 から 18 までの副次機能を入力して SRC を順次表示します。最新の SRC は、取り得る最も大きな副次機能番号 (18) で表示されます。システム状況 SRC が存在しない場合は、使用可能な副次機能は 00 のみとなり、これを選択しても SRC は表示されません。
C 1 0 0 1 0 3 4 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter を押して SRC データを読み取ります。
6 3 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、副次機能出口を選択します。
6 3 _	Enter キーを押して、副次機能モードを終了します。

機能 64: 診断状況 SRC の表示

機能 64 を選択して Enter を押すと、最新の診断状況 SRC を最高 25 まで表示できます。この機能は、手動操作モードに限り使用可能です。

次の表に診断状況 SRC を表示する方法の例を示します。

表 16. 機能 63: 診断状況 SRC の表示	
機能/データ	アクションまたは説明
6 4 _	増分または減分のボタンを使用して機能 64 にスクロールします。
6 4 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードに入ります。
6 4 0 2 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分ボタンを使用してアドレス・オフセットを選択します。 注 : 00 から 18 までの副次機能を入力して SRC を順次表示します。最新の SRC は、取り得る最も大きな副次機能番号 (18) で表示されます。診断状況 SRC が存在しない場合は、使用可能な副次機能は 00 のみとなり、これを選択しても SRC は表示されません。

表 16. 機能 63: 診断状況 SRC の表示 (続き)	
機能/データ	アクションまたは説明
D 1 2 3 4 5 6 7 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter を押して SRC データを読み取ります。
6 4 * * _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	増分または減分のボタンを使用して、副次機能出口を選択します。
6 4 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押して、副次機能モードを終了します。

機能 65: リモート・サービスの非活動化

この機能は、リモート・サービス・セッションを非活動化するために使用します。

この機能は、手動操作モードで、かつ OS により活動化された場合に限り使用可能です。

機能 66: リモート・サービスの活動化

この機能は、リモート・サービス・セッションを活動化するために使用します。

この機能は、手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。

機能 67: ディスク装置 IOP のリセット/再ロード

この機能は、I/O プロセッサ・ダンプ、および現在ディスク装置アテンション状態にあるリソースを制御する I/OP のリセット/再ロードを開始するために使用します。ディスク装置アテンション状態を示す参照コードの例として、A6000255 および A6000266 があります。

この機能は、手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。この機能は、表示された SRC の IOP がリセット/再ロード機能をサポートする場合に限り使用可能です。

機能 68: 並行保守 – 電源オフ

この機能は、現在ディスク装置アテンション状態にあるリソースが含まれている電源ドメインの電源をオフにするために使用します。ディスク装置アテンション状態を示す参照コードの例として、A6000255 および A6000266 があります。

この機能は、手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。

機能 69: 並行保守 – 電源オン

この機能は、機能 68 を使用して電源がオフにされた電源ドメインの電源をオンにするために使用します。

この機能は、手動操作モードで、かつオペレーティング・システムにより活動化された場合に限り使用可能です。

機能 70: IOP ダンプ

この機能は、I/O プロセッサ・ダンプ、および論理区画が活動化される時にロード・ソース・デバイスを制御するよう指定された IOP のリセット/再ロードを開始するために使用します。

機能 71: ネットワーク・ブートの活動化

機能 71 を有効にすると、システムは、次の初期プログラム・ロード (IPL) 時の最初の区画のネットワーク・ブートを実行しようとします。ブートは、周辺構成要素相互接続 (PCI) のディスカバリー順に基づいて、ディスカバリーされた最初の 5 つのネットワーク・デバイスの 1 つを使用して発生します。システムに、定義された区画がまったくない場合、ネットワーク・ブートは失敗します。ネットワーク・ブートの活動化

機能は、システムが電源オフになっているか、または稼働しているときに有効にすることができます。この機能は、PowerVM がハイパーバイザーの場合で、しかもお客様拡張 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合に、手動操作モードでのみ使用可能です。

以下の表は、ネットワーク・ブートの活動化方法の例を示しています。

表 17. 機能 71: ネットワーク・ブートの活動化	
機能/データ	アクションまたは説明
7 1 _	増分または減分のボタンを使用して機能 71 にスクロールします。
7 1 _ _ _ _ _ 00 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押します。

機能 72: ネットワーク・ブートの無効化

機能 72 を使用すると、機能 71 を使用して活動化されたネットワーク・ブート機能を無効にすることができます。ネットワーク・ブートの無効化機能は、システムが電源オフになっているか、または稼働しているときに有効にすることができます。ただし、この機能が有効になるのは次のブート時で、システムが PowerVM モードの場合です。ブート時に、プラットフォームは正常に初期化されます。この機能は、PowerVM がハイパーバイザーの場合で、しかもお客様拡張 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合に、手動操作モードでのみ使用可能です。

以下の表は、ネットワーク・ブートを無効化する方法の例を示しています。

表 18. 機能 72: ネットワーク・ブートの無効化	
機能/データ	アクションまたは説明
7 2 _	増分または減分のボタンを使用して機能 72 にスクロールします。
7 2 _ _ _ _ _ 00 _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押します。

機能 73: 出荷時リセット

機能 73 は、サーバー・ファームウェアおよびサービス・プロセッサ・ファームウェアの設定の完全リセットを開始して、システム全体の構成を出荷時のデフォルト設定に戻します。区画、ネットワーク設定、およびその他の重要なカスタマー設定に関する情報がすべてリセットされると、サービス・プロセッサがリブートされます。この機能は、プラットフォームが電源オフになっている場合にのみ使用可能です。この機能は、手動操作モードであり、お客様拡張 (CE) 機能の範囲が有効になっている場合にのみ使用可能です。

以下の表は、出荷時リセットの実装方法の例を示しています。

表 19. 機能 73: 出荷時リセット	
機能/データ	アクションまたは説明
7 3 _	増分または減分のボタンを使用して機能 73 にスクロールします。
A 1 7 0 8 0 0 B _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _ _	Enter キーを押し、出荷時リセットを確認して続行します。

表 19. 機能 73: 出荷時リセット (続き)	
機能/データ	アクションまたは説明
7 3 _	再度 Enter キーを押して、出荷時リセットを開始します。

機能 74 から 99: 予約済み

これらの機能は予約済みです。

IPL タイプおよびシステム操作モードの値

コントロール・パネルの機能で使用する有効な初期プログラム・ロード (IPL) タイプ、システム操作モード、ファームウェア IPL、およびハイパーバイザー・タイプを説明します。

以下の表は、IPL タイプの有効な値と、それぞれの説明を示しています。

注: オペレーティング・システム IPL タイプは、オペレーティング・システム IPL モードがオペレーティング・システムから使用可能にされている場合にのみ表示されます。

表 20. オペレーティング・システム IPL タイプ	
初期プログラム・ロード (IPL) タイプ	アクションまたは説明
A	システムのライセンス 内部コードのコピー A を使用してディスクから IPL を実行します。
B	システムのライセンス 内部コードのコピー B を使用してディスクから IPL を実行します。
C	ハードウェア・サービスの使用専用に予約済みです。  重要: この機能を誤って使用すると重大なデータ損失が発生する場合があります。
D	ロード・ソース・ディスク以外のメディアから IPL を実行します。コード・インストールをサポートするための代替 IPL です。

以下の表は、操作モードの有効値を示しています。

表 21. システム操作モード値	
システム操作モード	アクションまたは説明
手動 (M)	有人 IPL を実行できるようになり、コントロール・パネルの制限された機能にアクセスできます。
通常 (N)	無人 IPL を実行できるようになります。

以下の表は、ファームウェア IPL タイプの有効値を示しています。

表 22. ファームウェア IPL タイプ	
IPL タイプ	アクションまたは説明
P	システムのライセンス 内部コードのコピー P を使用してディスクから IPL を実行します。

表 22. ファームウェア IPL タイプ (続き)	
IPL タイプ	アクションまたは説明
T	システムのライセンス 内部コードのコピー T を使用してディスクから IPL を実行します。

以下の表は、ハイパーバイザー・タイプの有効値を示しています。

表 23. ハイパーバイザー・タイプ	
ハイパーバイザー・タイプ	アクションまたは説明
PVM	Power Virtualization Manager
OPAL	Open Power Abstraction Layer

Flexible Service Processor (FSP) のブート失敗サポート

FSP のブート失敗サポートについて説明します。

ブートの失敗後、FSP はスタンバイ・ステージになります。STANDBY 状態になった後で、FSP が少なくとも 15 分間作動しない場合、オペレーター・パネルに SRC B1817212 が表示されます。15 分の間に FSP が連続的にリセットを実行する場合、4 回目のリセット (15 分以内) の途中で FSP ブート処理は終了します。電源ボタンは使用不可になっており、ピンホール・リセット・ボタンを使用する必要があります。

表 24. FSP のブート失敗サポート	
データ	アクションまたは説明
B1817212_ _ _ _ _ _ _ _ _ _01	SRC B1817212 は、ブートの失敗を意味し、カウントに続いてシステム参照コード (SRC) により障害が起きる前のパルス・カウントの数が表示されます。

特記事項

本書は米国が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任は適用されないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述は、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはなりません。

IBM は、示されている特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

IBM のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険性をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に IBM の Web サイトをチェックする必要があります。

通信規制の注記

This product may not be certified in your country for connection by any means whatsoever to interfaces of public telecommunications networks. Further certification may be required by law prior to making any such connection. Contact an IBM representative or reseller for any questions.

本製品は、電気通信事業者の通信回線との責任分界点への、直接的な接続を想定した認定取得作業を行っていません。そのような接続を行うには、電気通信事業者による事前検査等が必要となる場合があります。ご不明な点については、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

IBM Power Systems サーバーのアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術コンテンツを快適に使用できるようにサポートします。

概説

IBM Power Systems サーバーには、次の主なアクセシビリティ機能が組み込まれています。

- キーボードのみによる操作
- スクリーン・リーダーを使用する操作

IBM Power Systems サーバーでは、最新の W3C 標準 [WAI-ARIA 1.0](http://www.w3.org/TR/wai-aria/) (www.w3.org/TR/wai-aria/) が [US Section 508](http://www.access-board.gov/guidelines-and-standards/communications-and-it/about-the-section-508-standards/section-508-standards) (www.access-board.gov/guidelines-and-standards/communications-and-it/about-the-section-508-standards/section-508-standards) および [Web Content Accessibility Guidelines \(WCAG\) 2.0](http://www.w3.org/TR/WCAG20/) (www.w3.org/TR/WCAG20/) に準拠するように使用されています。アクセシビリティ機能を利用するためには、最新リリースのスクリーン・リーダーに加えて、IBM Power Systems サーバーでサポートされている最新の Web ブラウザーを使用してください。

IBM Knowledge Center に用意されている IBM Power Systems サーバーのオンライン製品資料は、アクセシビリティに対応しています。IBM Knowledge Center のアクセシビリティ機能は、[IBM Knowledge Center](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/help#accessibility) のヘルプの『アクセシビリティ』セクション (www.ibm.com/support/knowledgecenter/help#accessibility) で説明されています。

キーボード・ナビゲーション

この製品では、標準ナビゲーション・キーが使用されています。

インターフェース情報

IBM Power Systems サーバーのユーザー・インターフェースには、1 秒当たり 2 回から 55 回明滅するコンテンツはありません。

IBM Power Systems サーバーの Web ユーザー・インターフェースは、コンテンツの適切なレンダリング、および使用可能なエクスペリエンスの提供を、カスケード・スタイル・シートに依存しています。アプリケーションは、視覚障害者が、ハイコントラスト・モードを含め、システム表示形式の設定を使用するた

めに同等の仕組みを提供します。フォント・サイズの制御は、デバイスまたは Web ブラウザーの設定を使用して行うことができます。

IBM Power Systems サーバーの Web ユーザー・インターフェースには、アプリケーションの機能領域に迅速にナビゲートできる WAI-ARIA ナビゲーション・ランドマークが組み込まれています。

ベンダー・ソフトウェア

IBM Power Systems サーバーには、IBM の使用許諾契約書の適用外である特定のベンダー・ソフトウェアが組み込まれています。IBM では、それら製品のアクセシビリティ機能については、何ら保証責任を負いません。ベンダーの製品に関するアクセシビリティ情報については、該当のベンダーにお問い合わせください。

関連したアクセシビリティ情報

標準の IBM ヘルプ・デスクおよびサポートの各 Web サイトに加え、IBM では、聴覚障害を持つユーザーまたは聴覚機能が低下しているユーザーが販売サービスやサポート・サービスにアクセスするのに使用できる TTY 電話サービスを用意しています。

TTY サービス
800-IBM-3383 (800-426-3383)
(北アメリカ内)

アクセシビリティに対する IBM の取り組みについて詳しくは、[IBM アクセシビリティ \(www.ibm.com/able\)](http://www.ibm.com/able) を参照してください。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」) では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie をはじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、『[IBM プライバシー・ステートメント](https://www.ibm.com/jp-ja/privacy)』 (<https://www.ibm.com/jp-ja/privacy>)、およびセクション『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』の『[IBM オンライン・プライバシー・ステートメント](https://www.ibm.com/jp-ja/privacy/details)』 (<https://www.ibm.com/jp-ja/privacy/details>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com® は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、Web 上で「[Copyright and trademark information](#)」をご覧ください。

クラス A 表示

以下のクラス A 表示は、POWER9 プロセッサを搭載した IBM サーバーおよびそのフィーチャーに適用されます。ただし、フィーチャー情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されている場合は除きます。

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

Canada Notice

CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A)

European Community and Morocco Notice

This product is in conformity with the protection requirements of Directive 2014/30/EU of the European Parliament and of the Council on the harmonization of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

This product may cause interference if used in residential areas. Such use must be avoided unless the user takes special measures to reduce electromagnetic emissions to prevent interference to the reception of radio and television broadcasts.

Warning: This equipment is compliant with Class A of CISPR 32. In a residential environment this equipment may cause radio interference.

Germany Notice

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse A EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2014/30/EU zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022 / EN 55032 Klasse A ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

EN 55032 Klasse A Geräte müssen mit folgendem Warnhinweis versehen werden:

"Warnung: Dieses ist eine Einrichtung der Klasse A. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funk-Störungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen zu ergreifen und dafür aufzukommen."

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse A

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:
International Business Machines Corp.
New Orchard Road

Armonk, New York 10504
Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:
IBM Deutschland GmbH
Technical Relations Europe, Abteilung M456
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tel: +49 (0) 800 225 5426
email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022 / EN 55032 Klasse A.

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) の特記事項

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値: Knowledge Centerの各製品の
仕様ページ参照

この表示は、20 A/相以下の製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A/相 (単相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 6 (単相、P F C回路付)
- 換算係数 : 0

この表示は、20 A/相 (3 相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 5 (3 相、P F C回路付)
- 換算係数 : 0

一般財団法人 VCCI 協会 (VCCI) の特記事項

この装置は、クラスA 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

Korea Notice

이 기기는 업무용 환경에서 사용할 목적으로 적합성평가를 받은 기기로서 가정용 환경에서 사용하는 경우 전파간섭의 우려가 있습니다.

People's Republic of China Notice

声 明
此为 A 级产品, 在生活环境中,
该产品可能会造成无线电干扰。
在这种情况下, 可能需要用户对其
干扰采取切实可行的措施。

Russia Notice

ВНИМАНИЕ! Настоящее изделие относится к классу A.
В жилых помещениях оно может создавать
радиопомехи, для снижения которых необходимы
дополнительные меры

Taiwan Notice

警告使用者：
此為甲類資訊技術設備，
於居住環境中使用時，可
能會造成射頻擾動，在此
種情況下，使用者會被要
求採取某些適當的對策。

IBM Taiwan Contact Information:

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

United States Federal Communications Commission (FCC) Notice

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or

by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Responsible Party:
International Business Machines Corporation
New Orchard Road
Armonk, NY 10504
Contact for FCC compliance information only: fccinfo@us.ibm.com

クラス B 表示

以下のクラス B 表示は、フィーチャー取り付け情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されているフィーチャーに適用されます。

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

Canada Notice

CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

European Community and Morocco Notice

This product is in conformity with the protection requirements of Directive 2014/30/EU of the European Parliament and of the Council on the harmonization of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

German Notice

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse B EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2014/30/EU zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022/ EN 55032 Klasse B ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse B

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:
International Business Machines Corp.
New Orchard Road
Armonk, New York 10504

Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:

IBM Deutschland GmbH

Technical Relations Europe, Abteilung M456

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tel: +49 (0) 800 225 5426

email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55032 Klasse B

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) の特記事項

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値: Knowledge Centerの各製品の
仕様ページ参照

この表示は、20 A/相以下の製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A/相 (単相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 6 (単相、P F C回路付)
- 換算係数 : 0

この表示は、20 A/相 (3 相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 5 (3 相、P F C回路付)
- 換算係数 : 0

一般財団法人 VCCI 協会 (VCCI) の特記事項

この装置は、クラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

Taiwan Notice

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

United States Federal Communications Commission (FCC) Notice

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult an IBM-authorized dealer or service representative for help.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions:

(1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Responsible Party:

International Business Machines Corporation
New Orchard Road
Armonk, New York 10504
Contact for FCC compliance information only: fccinfo@us.ibm.com

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: これらの条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態 で 提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

